

令和8年度 学校評価表(当初)

a 学校教育目標	夢や目標に向かって、自ら伸びる ともに伸びる児童の育成 (校訓) 自ら伸びる ともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン
----------	--	----------------------

評価計画					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための具体的方策(大枠)	f 評価項目	指標	目標値
確かな学力の向上 自ら考え、協働的な学びを通して、学力を高める児童の育成	児童の学ぶ意欲を高め、児童一人一人に合った、個別最適な学びを推進する。	児童一人一人の実態を把握し、児童に自己選択、自己決定させながら、ICT機器等を効果的に活用した授業づくりを行う。	単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の学年平均値が指標に示す点を超える教科数(20教科)  標準学力調査の平均値が全国平均以上の教科数(13教科)  校内検定(自作テスト)の平均正答率  i-check学習環境分析の「学習意欲」	平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)  全国平均以上の教科数  各学年の平均正答率80%以上  全学年全校平均以上	20/20  10/13  100%  6学年
	問いを持ち、自ら考え、対話を通してお互いの考えを深め合う授業の創造	R80を効果的に活用した授業改善を推進し、話し合い活動を充実させ、学び合いのある授業づくりを行う。	○教職員アンケートによる調査 ・学習者がR80を活用した学びのゴール(何がどのようにできればよいのか)を意識できるような工夫があるか。 ・学習者が新たな意味やアイデアを伝え合えるような対話の場面を設定しているか。 ・学習者が知識、経験、見方、考え方を生かしながら学べる計画になっているか。	肯定的評価の平均割合	95%
豊かな心と健やかな体の育成 特別活動を中心に、自分たちのきまりを尊重し、他者とのかわりを通して、自己肯定感と連帯感を高める	他者の良さや頑張りに基づき、お互いを尊重する集団づくりの推進	児童主体による、異学年や外部団体との交流活動など様々な活動を計画的に実施する。  定期的にお互いの良さや頑張りメッセージとして「見える化」し、認め合う活動を行う。	i-check「学級生活満足群」  ○児童アンケートによる調査 ・異学年や外部団体との交流活動について ・自分や他者のよさを認め合う活動について	学級生活満足群に位置づく児童の割合60%以上の学級数  肯定的評価の平均割合	9/9  80%
	目標に向けて、努力し続ける児童を育成する	自分の良さや興味・関心をもとに、自分の力を伸ばし、みんなのためになる活動を選択・実践させる。  定期的、目標と取組状況について児童と話し合い、目標達成に向けて児童に見通しを持たせる。	○教職員アンケートによる調査 ・みんなのためになる活動について ・定期的な目標設定と目標達成の見通しを持たせることについて	肯定的評価の平均割合	90%
働き方改革 大和町の学校として地域から信頼され、必要とされる存在になるとともに、期待に応えることができる存在となる	本校に対する地域の関心を高める	コミュニティー・スクールの活動を推進し、地域との交流活動を行う。  児童のメッセージ、学校の様子を定期的に発信する	地域人材を効果的に活用する。  地域や保護者に情報を月1回以上発信する。	実施率	100%
	働き方改革を推進し、働きやすい職場環境を構築する	行事等の内容を精選し、効率的な業務を推進する。  学校準衛生委員会等で各自の勤務時間外在校時間を確認し、業務の見直しやサポート体制を構築する。	「三原市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」を基に、時間外勤務の上限目安時間・45時間/月を超えない。360時間/年を超えない。特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は、1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について、1か月当たりの平均が80時間を超えない。	勤務時間外の在校時間 全教職員年間360時間以内、月45時間以内の割合	100%